汉日理论语言学研究

沈　力　赵华敏◎主　编
彭广陆　李长波　于　康　[日]定延利之◎副主编

學苑出版社

图书在版编目（CIP）数据

汉日理论语言学研究/沈力，赵华敏编．—北京：学苑出版社，2009.6

ISBN 978-7-5077-3383-9

Ⅰ.日… Ⅱ.①沈…②赵… Ⅲ.①日语-语言学-文集②汉语-语言学-文集 Ⅳ.H36-53 H1-53

中国版本图书馆CIP数据核字（2009）第085986号

责任编辑：韩继忠

出版发行：学苑出版社

社　　址：北京市丰台区南方庄2号院1号楼

邮政编码：100079

网　　址：www.book001.com

电子信箱：xueyuan@public.bta.net.cn

销售电话：010-67675512、67602949、67678944

经　　销：新华书店

印 刷 厂：河北金鑫印刷有限公司

开本尺寸：787×1092　1/16

印　　张：25.625

字　　数：500千字

版　　次：2009年6月第1版

印　　次：2009年6月第1次印刷

定　　价：55.00元

目　次

まえがき　沈　力/1

基調講演

事件的世界与物的世界——事件描述与属性描述　影山太郎/2
いわゆるナ形容詞の結果述語を巡って　三原健一/15

第1部分　日本語研究

「かもしれない」の談話機能について　小野正樹　山岡政紀　牧原功/26
日本語用言複合体の境界性と非節化　加藤重広/31
部分的な達成を表す語彙概念構造　岸本秀樹/38
ノチ節におけるテイタ形について　橋本修/47
リソースの拡大と言語テスト　牧原功　山岡政紀　小野正樹/55
日本語の形容詞は少ないか　村木新次郎/64
日本語の強意表現をめぐって—「全然」を中心に—　山内信幸/73
学習者用辞書の用例を産出する—オントロジー工学的アプローチ—　山崎直樹/80
複雑述語の形成に伴う事象構造の合成と項の実現　由本陽子/88
日本語の「それ＋機能語」構造の語彙化傾向
—「それが」の接続詞化を例として—　陳訪澤　蘇　鷹/98
中国人学習者向けの日本語教育文法の構築のために
—品詞体系を中心に—　彭広陸/107
異母語学習者の日本語学習—理解を中心に—　王婉莹/116
基礎日本語における授受表現について—日本語教育の立場から—　王　燕/123
言語研究における「意味」について　許宗華/132
日语授受动词句受事移动中“モノ”的意义　楊　玲/139
再出発系構文のメカニズム—「ゼロ/—から始める」を中心に—　俞暁明/146
「V＋物」と「物＋V」　張佩霞/155
「だろう」の機能変化と(間)主観化　張　興/163
江戸後期の国学者の「心ノ声」—「テニヲハ」との関連において—　趙　菁/172

第2部分　中国語研究

浅析量词“个”的提取标准功能　町田茂/182
汉语词化初探——从日本汉语初学者偏误说开去　盧　濤/188
中国語の結果構文と事象構造　沈　力　林宗宏/197

第3部分　日中対照研究

描写性副詞と事象構造　伊藤さとみ/212
日中の「国」字形の発生過程の仮説　兒島慶治/223
日本語と中国語のコピュラ文について
　—指定文の焦点標識としての“就/才”—　下地早智子/230
“动十上十空间词十来/去”の“上”と空間詞との関係について　高橋弥守彦/238
現代日本語の字音語の様相　田中章夫/246
日中小集団討論場面におけるメタ発話　徳井厚子　趙　剛/251
“Ditransitive Sentences: A View from the East”　原田なをみ/259
動詞由来型形容詞の意味と構造に関する日中対照研究
　—日本語「みにくい」と中国語“难过”を手がかりにして—　古川　裕/267
日本語・中国語の自動詞構文の対照研究
　—‘-e-’自動詞と‘-ar-’自動詞との対照をめぐって—　望月圭子/277
中日両言語における同一の指示物と語句の導出背景
　—<2本の足を交替に前へ動かす>という移動法を例にして—　欧文東/285
古代漢語から見る日本語における漢語の研究　邱根成/293
日中両言語における多義構造について—言語類型論の立場から—　盛文忠/300
日本語と中国語の道具格—「で」と“用”を中心に—　王軼群/309
中国語の“冲”と“闯”の違いについて　王志英/316
中日言語比較研究における方法論的な研究—翻訳文法論の構築を話題に—　呉大綱/326
日本語と中国語の挨拶言葉—「こんにちは」と“你好”をめぐって—　続三義/335
中日両言語における接置詞について
　—中国語の前置詞「对」と対応する日本語の後置詞を中心に—　楊　華/347
時間直示に関する日中語用論的対照分析　余　維/356
日中の結果複合動詞と数量詞との共起に関する一考察
　—主語結果複合動詞を中心に—　張　超/365
移動表現「…クル」と“～来”との関係について　張岩紅/374
日本語と中国語の「好まれる言い方」について　趙華敏/386
日中結果位置表現の対照　朴貞姫/395

あとがき　/404

日本語・中国語の自動詞構文の対照研究
—‘－e－’自動詞と‘－ar－’自動詞との対照をめぐって—

望月圭子

要旨:

本稿は、日本語の二種類の自動詞化接辞、‘－e－’及び‘－ar－’に焦点をあて、対応する中国語の観点から、‘－e－’が内在的状態変化を表す自動詞化、即ち「反使役化」を表す接辞であるのに対し、‘－ar－’が、外在的状態変化を表す場合に、動作主を背景化し抑制することによっておこる自動詞化、すなわち「脱使役化」を表す接辞であることを傍証する。さらに、中国語では、動詞の派生が「状態→起動→使役」の方向に起こり、使役化はあっても、反使役化が語形成において存在しないことを示す。さらに、脱使役化に関して、中国語では語形成のレベルではなく、結果述語が動詞の後におかれるという構文のレベルで起こることを示す。

キーワード:

‘－e－’自動詞化接辞　‘－ar－’自動詞化接辞　反使役化　脱使役化　結果性　被動者卓越型

1. 日本語の自動詞化接辞‘－e－’と‘－ar－’

本稿の目的は、日本語の自動詞化接辞‘－e－’‘－ar－’が、中国語において、どのような動詞又は表現形式に対応しているのかを検証し、動詞の自他の特性について、日本語と中国語の対照を試みることにある。

影山(1996:183－194)では、‘－e－’及び‘－ar－’の機能について、(1)のような提案をしている。

(1) 自動詞化接辞‘－e－’及び‘－ar－’の機能

a. ‘－e－’: 対象の変化は、対象自身の内在的な性質によるもので、使役主を変化対象と「同定」(identification)(「反使役化」(anticausativization))することで自動詞化を行う。

割る/割れる，抜く/抜ける，砕く/砕ける，折る/折れる，ほどく/ほどける，切る/切れる，取る/取れる，織る/織れる，破る/破れる，崩す/崩れる，煮る/煮える，離す/離れる

$\boxed{\text{反使役化}}$:$[_{V_t}\ V] \rightarrow [_{V_i}\ V - e -]$

[[x ACT ON y] CONTROL [y BECOME [y BE AT－z]]]

↓反使役化

x＝y(同定; yの内在的性質により、自発的に状態変化を引き起こす)

→　x＝y CONTROL [y BECOME [y BE AT z]]]

b. '－ar－'：対象の変化は、外在的な要因によるものであるが、自動詞化接辞'－ar－'は、使役主を意味構造で「抑制」(suppress)し、統語構造に投射しない(「脱使役化」(decausativization))ことで自動詞化を行う。

植える/植わる，集める/集まる，詰める/詰まる，まぜる/まざる，いためる/いたまる，掛ける/掛かる，ふさぐ/ふさがる，つなぐ/つながる，儲ける/儲かる，決める/決まる，助ける/助かる，(値段を)まける/まかる

脱使役化：[$_{Vt}$ V] →[$_{Vi}$ V－ar－]

[[x ACT ON y] CONTROL [y BECOME [y BE AT－z]]]

↓脱使役化

φ(使役主が「抑制」され、統語構造において投射されない)

以下、影山(1996：183－194)が提案する「反使役化」及び「脱使役化」が、中国語にもおこるかという視点から、第二節では、'－e－'自動詞に対応する中国語表現について、第三節では、'－ar－'自動詞に対応する中国語表現について、第四節では、自他をめぐる日本語と中国語の対照を試みる。本稿で挙げる用例は、Jacobsen(1992)の付録に挙げられている339対の日本語の自他対応と英語訳をもとにして、望月(2004：付録1－34)において中国語訳を付し、再整理した日中英語動詞の自他対応表より引用する。

2. 中国語からみた日本語の「'－e－'自動詞」

「'－e－'自動詞」と対応する中国語の典型の一つとして、'－e－'自動詞が形容詞、対応する他動詞が、活動動詞・状態変化使役他動詞に対応する場合がある。以下、三例挙げよう。

(2)「'－e－'自動詞」と対応する中国語：－e－/－φ－他動詞から自動詞へ

	自動詞－e－	他動詞－φ－
1.	kir-e-ru 切れる(become cut off, severed)	kir－φ－u 切る(cut, sever)
	断(形容詞) duàn 被｛剪 /切 /割｝断(他動詞の受身形) bèi｛jiǎn/qiē/gē｝duàn	剪 /切 /割(活動動詞) jiǎn /qiē /gē 剪断 /切断 /割断(状態変化使役動詞) jiǎn duàn/qiē duàn/gē duàn
2.	kudak-e-ru 砕ける(become smashed)	kudak－φ－u 砕く(smash)
	碎 suì(形容詞) 打碎 dǎ suì (状態変化使役動詞の自動詞用法)	敲 qiāo(活動動詞) 打碎 dǎ suì/敲碎 qiāo suì (状態変化使役動詞)
3.	war-e-ru 割れる(break$_{in}$)	war－φ－u 割る(break$_{tr}$)
	破 pò(掉 diào)(形容詞)	弄破 nòng pò(状態変化使役動詞)

(2)における中国語の対応表現を語彙概念構造にあてはめて説明すると、(3)のようになる。

(3)「-e-/-φ-」型自他に対応する中国語

[[x ACT ON y]CAUSE[(y)BECOME[y BE AT-z]]]

①活動:単音節活動動詞
剪,切,割

②状態:単音節状態述語
断,碎,破

③起動:実現相アスペクト辞の<-了 le>の付加「内在的状態変化としての事象認識」
断了,碎了,破了

④達成動詞:[原因活動動詞+結果状態述語]を表す複合動詞
「外在的状態変化としての事象認識」
剪断/切断/割断/打碎/敲碎/弄破

まず、中国語において、'-e-'自動詞に対応する表現は、(3)の③形容詞又は非対格動詞に実現相アスペクト辞の<-了 le>が付加された表現となる。また、対応する他動詞は、(3)の①活動を表す他動詞か、④の[原因活動動詞+結果状態述語]という内部構造をもつ結果複合動詞(基本は他動詞)となる。①と④の相違は、①が結果を含意しないのに対し、④が結果を含意する点にある。

さて、ここで、日本語の「切れる」と対応する中国語について考えたい。一般に、cut 類動詞は、ナイフを用いるという特定の動作が指定されているため、break 類動詞と異なり、使役起動交替をおこさない(Levin and Rappaport Hovav(1995:95),小野(2000:6-8))とされ、中国語の<切 qiē>も自動詞化することは不可能であるのに、なぜ、日本語では、「切る」が「切れる」と自動詞化されるのだろうか。以下、対応する中国語からこの問題を考えたい。中国語では、「切れる」という自動詞に対して、(3)の③の状態述語に実現相アスペクト辞の<-了 le>が付加された形式、即ち内在的状態変化の形式が対応する場合(以下の(4a))と、(3)の④の[原因活動動詞+結果状態述語]を表す複合動詞の受動形、即ち外在的状態変化の意味をもつ場合(以下の(4b))の二つの場合がある。

(4)「切れる」に対応する二種の中国語表現

a. 内在的状態変化:状態述語+実現相アスペクト辞の<-了 le>　e.g. 断了

b. 外在的状態変化:状態変化使役他動詞の受身　e.g. 被{剪/切/割}断

ここで注目すべきは、「切れる」が、中国語では、(4a)のように、内在的状態変化を表す形式に対応するという現象で、この現象は、'-e-'による自動詞化は、内在的状態変化を表す反使役化であるとする影山(1996:183-194)の考え((1a))を支持する現象である。さて、「切る」と「切れる」の語彙的意味を考えると、(5)のようになる。

(5)「切る」vs.「切れる」

a. 切る:「ある手段を用いた動作で対象の状態変化をもたらす」という語彙的意味

をもつ。

b. 切れる:「分離可能」という属性をもつ事物の状態変化、内在的状態変化としての認識を動詞の語彙特性としてもちうる。

英語や中国語でも、「ある特定の手段を用いた状態変化使役他動詞」は使役起動交替をおこさないのが一般的であっても、日本語では、「切れる」と自動詞が存在するという現象は、日本語が外在的要因を背景化しやすいという特質をもっていることが示唆され、ひいては、日本語でなぜ脱使役化がおこるのかということへの一つの説明となろう。

最後に、申(2005:254-258)でも指摘されているように、中国語には、「反使役化」というプロセスが存在しないことに触れておきたい。中国語では、「状態」(e.g. 断)→「起動」(e.g. 断了)→「使役」(e.g. {剪/切/割}断)の方向へ語形成がおこり、日本語のように、「使役」(切る)→「起動」(切れる)のような反使役化がない。

これは、古代中国語における、形容詞が形態を変えずに使役起動用法をもつ「使役化」現象の派生の方向とも一致する。太田(1958:204-209)より一例を挙げると、古代漢語の<潔之>中の「潔」は「清潔である」という形容詞であるが、形態を変えずに状態変化使役他動詞としても機能し、「これをきれいにする」という他動詞用法があるという。太田(1958:204-209)によれば、古代漢語における、形容詞から状態変化使役他動詞への派生は、現代中国語では、結果複合動詞へと歴史的変化をとげ、例えば、<潔之>は、現代中国語では、<弄乾淨>、即ち具体的動作を指定しない軽動詞<弄>を以って原因動作を表す前項、「清潔な」という意の形容詞<乾淨>が後項を担う結果複合動詞に対応する。

さらに、中国語において、<-化 hua>という接辞が、<美化、強化、軟化、簡化、同化>等、状態を表す形容詞から状態変化自動詞、さらに状態変化使役他動詞を派生させる手段として、非常に生産的であることからも、中国語の語形成レベルでの派生のプロセスが、「状態」→「起動」→「使役」へと進むことを示唆している。

3. 中国語からみた日本語の「'-ar-'自動詞」

次に、日本語の「'-ar-'自動詞」に対応する中国語表現をみると、「'-e-'自動詞」と対応する中国語とは明らかに異なるパターンがみられる。結論からいうと、「'-ar-'自動詞」は、中国語では、他動詞に {-好 hǎo/-滿 mǎn/-到 dào/-開 kāi/-遍 biàn/-掉 diào…etc} といった「局面標識」(phase marker)[1]や着点としての場所を動詞の後ろに後置する表現に対応している。こうした中国語の対応表現は、いずれも、結果表現を他動詞に付け加えることによって、結果性が前景化する一方で、動作主が背景化し、自動詞構文として機能しているものである。この現象は、'-ar-'が動作主を背景化し、統語構造に表さない脱使役化において用いられる接辞であるという影山(1996:183-194)の主張を中国語から支持する現象である。以下、具体例をみていこう。

(6)'-ar-/-e-'他動詞から自動詞へ:「局面標識」による脱使役化の例

	自　動　詞　-ar-	他　動　詞　-e-
1.	tam-ar-u 貯まる(collect$_{in}$) 存　滿(一定金額) cún mǎn (yí dìng jīn é)	tam-e-ru 貯める(collect$_{tr}$) 存 cún
2.	yud-ar-u 茹る(be boiled) 煮 zhǔ{好 hǎo/熟 shóu }	yud-e-ru 茹でる(boil) 煮 zhǔ
3.	uw-ar-u 植わる(be planted) 種 {好/滿} zhòng{ hǎo/ mǎn}	u-e-ru 植える(plant) 種 zhòng
4.	tukam-ar-uつかまる(be caught) 抓到 zhuā dào	tukam-φ-uつかむ(catch) 抓 zhuā
5.	tutaw-ar-u 伝わる(be handed down) 傳 chuán {開 kāi/遍 biàn }	tuta-e-ru 伝える(transmit) 傳 chuán

(6)で例示されるような、中国語の脱使役化プロセスを図式化すると、(7)のようになる。

(7) 結果複合動詞の脱使役化(望月(2004:145)，申(2005:248－249)，中島(2007:56－60))

a. 動作他動詞

→結果複合動詞化(中国語で達成動詞を派生するストラテジー)

b. [$_{V_t}$動作他動詞 ＋'局面標識 phase marker']

↑

{-好 hǎo/-滿 mǎn/-到 dào/-開 kāi/-遍 biàn/-掉 diào…etc}

e. g. 種 zhòng＋好 hǎo→[$_{V_t}$種好 zhònghǎo](植える)

→結果述語の付加→結果事象の前景化→動作主の抑制→脱使役化→自動詞構文

c. [$_{V_t}$動作他動詞＋'局面標識 phase marker']

e. g. [$_{V_t}$種好 zhònghǎo]→(脱使役化)→[$_{V_t}$種好 zhònghǎo](植わる)

([x ACT (ON) y] CAUSE)　　[BECOME [y BE AT－z]]

↑　↑

動作主の背景化　使役の背景化　　結果状態の前景化

次に、'－ar－'自動詞が、着点となる存在場所を動詞の後ろに置いた中国語の自動詞表現に対応する例をみよう。

(8) 着点となる存在場所を後置することによる脱使役化(望月(1982:9－10)，申(2005:251－252))，中島(2007:44－46))

	自　動　詞　-ar-	他　動　詞　-e-
1.	kak-ar-u かかる(hang$_{in}$) 掛在 guà zài 場所	kak-e-ru かける (hang$_{tr}$) 把 bǎ 目的語 掛在 guà zài 場所

续表

	自　動　詞　-ar-	他　動　詞　-e-
2.	tuk-ar-u つかる(soak$_{in}$ in) 泡在 pào zài 場所	tuk-e-ru つける(soak$_{tr}$ in) 把 bǎ 目的語 泡 在 pào zài 場所
3.	tum-ar-u つまる(become packed) 裝在 zhuāng zài 場所	tum-e-ru つめる(pack) 把 bǎ 目的語 裝在 zhuāng zài 場所

(8)で'-ar-'自動詞に対応する中国語表現は、(9)のようなプロセスを経て派生される。

(9) 結果の場所を前景化することによる脱使役化

([x ACT (ON) y] CAUSE)　　[BECOME [y BE AT-z]]

↑　　↑

動作主の背景化　使役の背景化　　結果場所の前景化

(6)(8)では、いずれも、他動詞に結果性を表す表現がついて結果が前景化され、動作主が背景化されることによって自動詞化された中国語が'-ar-'自動詞に対応している。この日中語の対応は、'-ar-'が脱使役化をひきおこす接辞であることを、支持するものである。

しかし、望月(2004:付録1-34)の対応表では、'-ar-'自動詞が、中国語の能格動詞に対応する場合も多い。例を以下に10例挙げる。

(10)「'-ar-'自動詞」に対応する中国語表現のもう一つの典型:能格動詞

対応する日本語	中国語の能格動詞	対応する英語
1 提高 tí gāo	rise / raise	上がるag-ar-u/上げるag-e-ru
2 改善 gǎi shàn	become improved/ improve	改まるaratam-ar-u/改める aratam-e-ru
3 聚集 jù jí	gather	集まるatum-ar-u/集める atum-e-ru
4 開始 kāi shǐ	begin	始まるhazim-ar-u/始める hazim-e-ru
5 擴大 kuò dà	spread out	広がるhirog-ar-u/広げる hirog-e-ru
6 擴散 kuò sǎn	spread	広まるhirom-ar-u/広める hirom-e-ru
7 改變 gǎi biàn	change	変わるkaw-ar-u/変える ka-e-ru
8 決定 jué dìng	become decided/decide	決まるkim-ar-u/決める kim-e-ru
9 統合 tǒng hé	take shape/ put into order	まとまるmatom-ar-u/まとめる matom-e-ru
10 完成 wán chéng	end	終わるow-ar-u/終える o-e-ru

(10)の中国語の10例はすべて能格動詞であるが、対応する英語も、10例中6例が能格動詞となっている。この10例は、意味的にも、かならずしも脱使役化ではなく、いずれも「自然とそうなる」という内在的変化をも表しうる。このことは、'-ar-'接辞は、常に脱使役化をひきおこすわけではないことを示すが、'-ar-'接辞が脱使役化の機能をもつという主張をくつがえすものではない。

第二節の最後で、中国語の語形成レベルでの派生のプロセスが、「状態」→「起動」→「使役」へと進むと述べたが、中国語の脱使役化は、動詞そのものの派生にかかわるのではなく、結果述語の存在によっておこる。日本語と同様、中国語においても脱使役化はしばしばおこるが、それは、Tai(1984,2003),Mochizuki(2007)が主張するように、中国語が「被動者卓越」(Patient-Oriented)型であることと深く関わる。また、中国語が「主題卓越」(Topic-Prominent)型言語(Li and Thompson1976)で、自他の区別、主格・対格表示が形態的にないという孤立語的特徴をもっていることも、脱使役化を柔軟に許す要因である。

4. 終わりに

以上の考察をふまえ、日本語と中国語の自他を対照してみると、(11)のようにまとめることができる。

(11) 日本語と中国語の自他の対照

	日本語	中国語
1)内在的状態変化を含意する自動詞化表現	1.「'-e-'自動詞」が典型か?(e.g. 切れる、破れる、折れる) 2.「'-ar-'自動詞」の場合もありうる。(e.g. 始まる、終わる、広がる、広まる)等	状態を表す形容詞+<-了 le>(e.g 断了 duànle 切れる)
2)外在的状態変化を含意する自動詞化表現	「'-ar-'自動詞」が典型	1) 結果事象の前景化 a. 局面標識の後置 e.g. [$_{V_1}$種好 zhònghǎo] b. 結果の場所の後置 e.g. [$_{V_1}$掛在 guà zài 場所] 2) 能格動詞 e.g. 決定 jué dìng 決まる
3)自動詞から他動詞へ	'-os-(-osu)/-as-(-asu)' '-e-'等の接辞による	結果複合動詞 e.g. 切+断 qiē duàn

注釈

[1] <-好 hǎo/-滿 mǎn/-到 dào/-開 kāi/-遍 biàn/-掉 diào>等の、活動動詞の後について、結果性を表し、活動動詞を達成動詞に変える働きをする成分を指す。いずれも、形容詞又は非対格動詞から文法化を経て、完結性を与える文法機能をもち、生産性があるが、アスペクト標識<-了 le/-著 zhe/-過 guo>ほど文法化がすすんでおらず、語彙性がかなり残っているため、共起する述語との選択制限がある。このため、アスペクト標識とは区別して、「局面標識」(phase marker)と呼ぶことにする。

参考文献

影山太郎 1996.『動詞意味論』くろしお出版.

望月圭子 2004.《動詞的使動與起動交替:漢日語的對照研究》(*Causative and Inchoative Alternation: Comparative Studies on Verbs in Chinese and Japaness*),台灣國立清華大學語言學研究所博士論文.
http://140.113.39.130/cgi-bin/gs/hugsweb.cgi? o=dnthucdr にてダウンロード可能.

望月八十吉 1982.「日本語から中国語を眺める-その2-」『日本語と中国語の対照研究』第 8 号:1-18. 日本語と中国語対照研究会編.

望月八十吉 1992.「日中両国語における能格的表現」『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版.

中島悦子 2007.『日中対照研究　ヴォイス-自・他の対応・受身・使役・可能・自発』おうふう.

小野尚之 2000.「動詞クラスモデルと自他交替」、丸山忠雄・須賀一好(編)『日英語の自他交替』、33-70. ひつじ書房.

太田辰夫 1958.『中国語歴史文法』, 江南書院.

申　亜敏 2005.「中国語の自他と結果表現類型」,影山太郎(編)『レキシコンフォーラムNo. 1』231-266. ひつじ書房.

Levin, Beth and Malka Rappaport Hovav. 1995. *Unaccusativity: At the Syntax-Lexical Semantics Interface*. MIT Press.

Li, Charles N., and Sandra A Thompson 1976. "Subject and Topic: A New Typology of Language" in Li, Charles N. (ed.) *Subject and Topic*. 457-489. New York: Academic Press.

Jacobsen. W. M. 1992 *The Transitive Structure of Events in Japanese*. Kurosio Publishers, Tokyo.

Mochizuki, Keiko 2007. 'Patient-Orientedness in Resultative Compound Verbs in Chinese', in edited by Yuji KAWAGUCHI (et al.) *Corpus-Based Perspectives in Linguistics*, 287-300, John Benjamins Publishing Co.

Tai, James H-Y. 1984. 'Verbs and Times in Chinese: Vendler's FourCategories', *Lexical Semantics*, Chicago Linguistic Society.

Tai, James H-Y. 2003.「認知相對論: 漢語結果複合動詞的啟示」,『語言暨語言學』第四卷, 第二期: 301-316, 中央研究院.